

近代化遺産を活用した地域学習活動プランに関する一考察



足利工業大学 工学部 都市環境工学科
福島研究室(土木史研究室) 掛川 朋子

1 はじめに

近年、多くの地方都市では、若年労働者層の大都市への人口流出が大きな問題として恒常化している。また、地域への愛着心や誇りの醸成を目的として、地域の歴史・文化を活用した取組みが各地で試行されている。近代化遺産は歴史・文化資源の一つとして位置づけられ、生まれ育った郷土の身近な歴史・文化としてのその活用は、前述の地方都市が抱える課題解決に向けた取組みとして、検討に値するものと考えられる。

本研究では、那須烏山市内に現存する近代化遺産を基軸に、歴史・文化および伝統等を題材とした学習プログラムを「地域学習活動プラン」として企画・立案した。そして、そのプログラムを基に市内児童を主たる対象として実施し、その成果分析を踏まえ、「地域学習活動プラン」の評価について考察することを目的とする。

2 「地域学習活動プラン」の作成

表1に、「地域学習活動プラン」のテーマを示す。「地域学習活動プラン」とは、近代化遺産などの歴史・文化資源の活用を通して、地域への愛着心と誇りを醸成することを狙いとしたプログラムである。具体的には、郷土愛、コミュニケーション能力、さらに、先人が築いてきた地域の歴史・文化の継承意欲の涵養を目的としている。本研究では、表1に示す「地域学習活動プラン」の②を基に『橋を題材とした学習会』(プランⅡ)、⑤⑥⑨を基に『近代化遺産ツアー』(プランⅢ)として実施し成果の分析を行った。なお、研究室の取組みとして『境橋を活用した環境学習プログラム』(プランⅣ。②⑥企画)、『烏山和紙を活用した鯉のぼり祭り』(プランⅠ。①企画)、『近代化遺産全国一斉公開』(プランⅤ。⑩企画)を実施したが、本稿の分析対象からは外した。

表1 「地域学習活動プラン」のテーマ

地域学習活動プラン	
①	那須烏山市伝統工芸品『烏山和紙』による鯉のぼり制作体験と鯉のぼり祭りの運営
②	那須川に架かる橋を利用した学習会の実施
③	烏山線唱歌を利用した地域巡り
④	旧戦車工場跡の測量体験と図面作成
⑤	烏山城や近代化遺産の広さ・大きさの計測と面積計算など
⑥	近代化遺産ツアーを通して地域の文化財愛護の心を学ぶ
⑦	那須烏山市の歴史遺産ガイドマップの制作
⑧	旧森田発電所を活用したテーマパーク計画案の作成
⑨	近代化遺産ツアーの企画・実施
⑩	「近代化遺産全国一斉公開inなすからすやま」の企画・実施

3 プランⅡ『橋を題材とした学習会』

学習会の実施にあたりテキストを作成した。構成は、A4版全57頁のカラー印刷である。工夫した所は、①大学生と小学生による会話形式による説明をした。②小学校4年生までの配当漢字を使用した。③境橋の歴史・構造についての説明をした。

学習会は、8月7日と8月24日の2日間、5つの学童クラブ(烏山、七合、境、荒川、江川)を巡回して実施した。出席した児童総数は366名である。授業は、製作したテキストを基にpptにより概ね30分を目途に行い、授業終了後に学習会およびテキスト・授業内容等に関するアンケート調査を実施した。

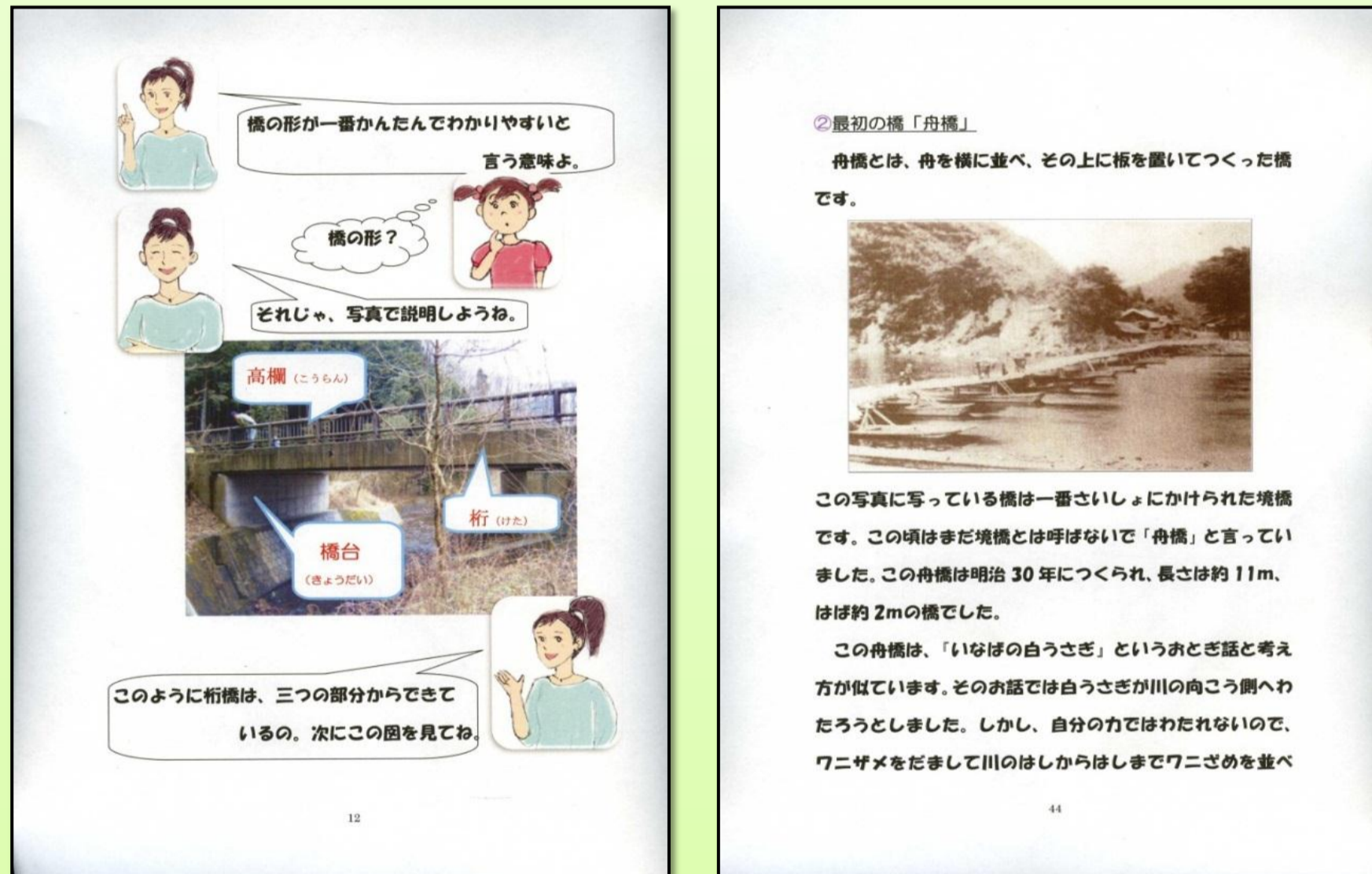


図1 作成したテキスト



写真1 学習会の様子

4 プランⅢ『近代化遺産ツアー』

近代化遺産ツアーは、8月20・21・22・23・27日の5日間、学習会同様学童クラブ毎に実施した。市内に現存する近代化遺産5か所(旧国鉄烏山駅舎、烏山通運石造り倉庫群、旧烏山病院、境橋、旧戦車工場)をマイクロバスで巡るもので、児童および保護者を含む総数226名が参加した。ツアーは、現地での遺産解説と体験学習メニューを織り込み実施し、終了後にアンケート調査を行った。

旧戦車工場では、歩測による坑道長さの測定を行った。8本の坑道に分かれ、自分の一歩の長さを測り坑道の長さを測定した。正解に一番近い値の児童には大学から賞品を贈呈した。



写真2 石造り倉庫群での体験学習(8月27日)



写真3 旧戦車工場での歩測による坑道長の測定(8月22日)

5 成果の分析

(1) プランⅡ『橋を題材とした学習会』

表2 学習会の児童数・回答率

学童	児童数	回答数	回答率(%)
烏山	120	106	88.3
七合	59	59	100.0
境	44	43	97.7
荒川	90	88	97.8
江川	53	51	96.2
合計	366	347	94.8

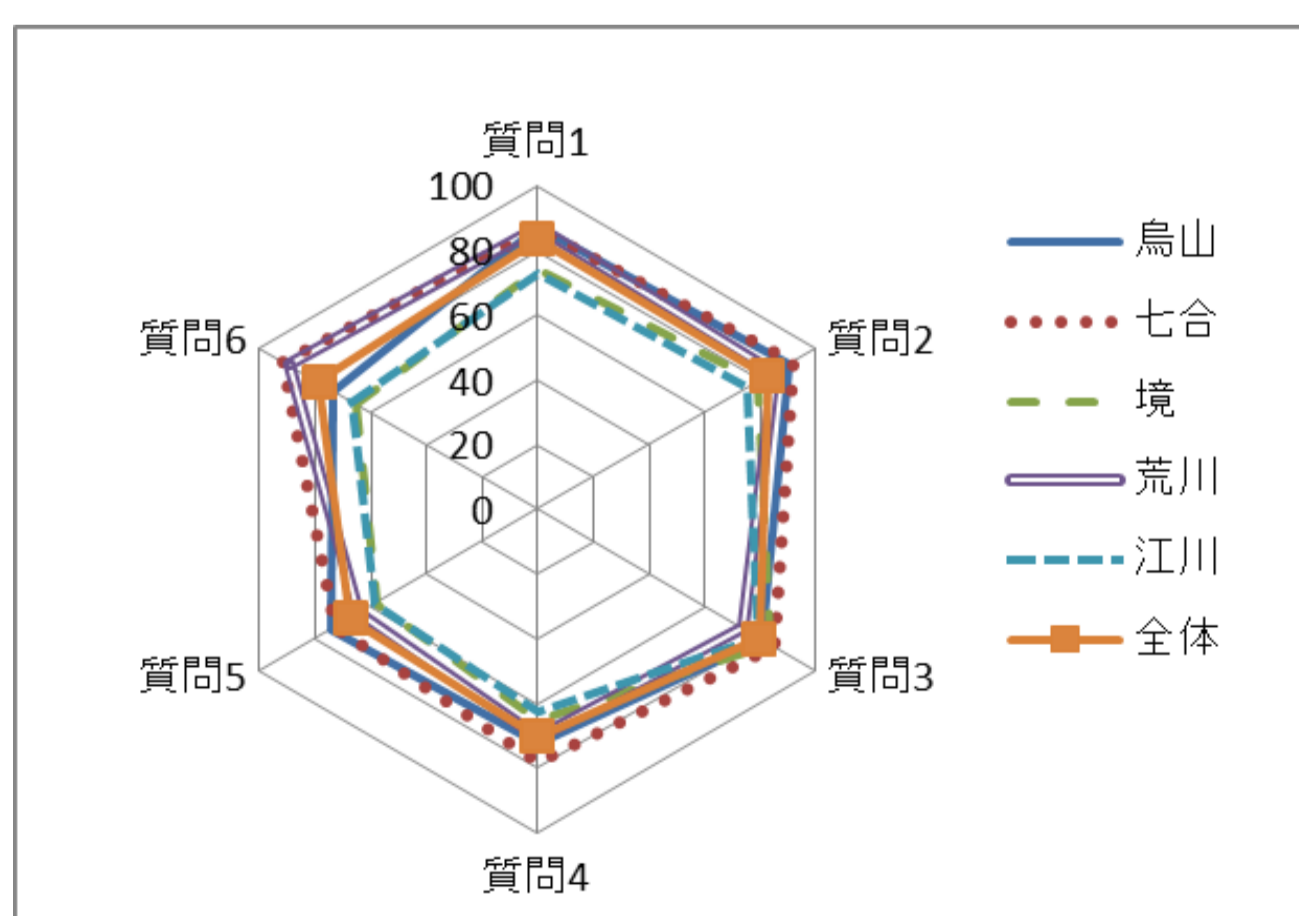


図2 学習会に対するアンケートの分析

8月7日・24日の2日間で366名の児童が授業に参加した。アンケートの回答数が347名、回答率が94.8%である。図2、に学習会に対するアンケートの分析結果を示す。テキスト全体について83%強が評価するとともに(質問1)、近代化遺産・境橋の歴史や構造の理解度は82%強と高い比率を示した(質問2)。また、地域への興味が増幅が見られるなど(質問6)、近代化遺産を活用した学習会の効果が伺えた。

表3 学習会の評価の内容

質問	評価の内容
質問1	学習資料評価
質問2	境橋の歴史・構造の理解
質問3	話言葉の妥当性
質問4	視覚資料(写真・絵)の効果
質問5	文章量の妥当性
質問6	地域への興味を増幅

(2) プランⅢ『近代化遺産ツアー』

表4 ツアーの参加者・回答率

参加者	参加者	回答数	回収率(%)
8月20日(七合)	35	24	68.6
8月21日(境)	27	22	81.5
8月22日(江川)	38	27	86.8
8月23日(烏山)	76	56	75.0
8月27日(荒川)	50	39	86.0
合計	226	168	74.3

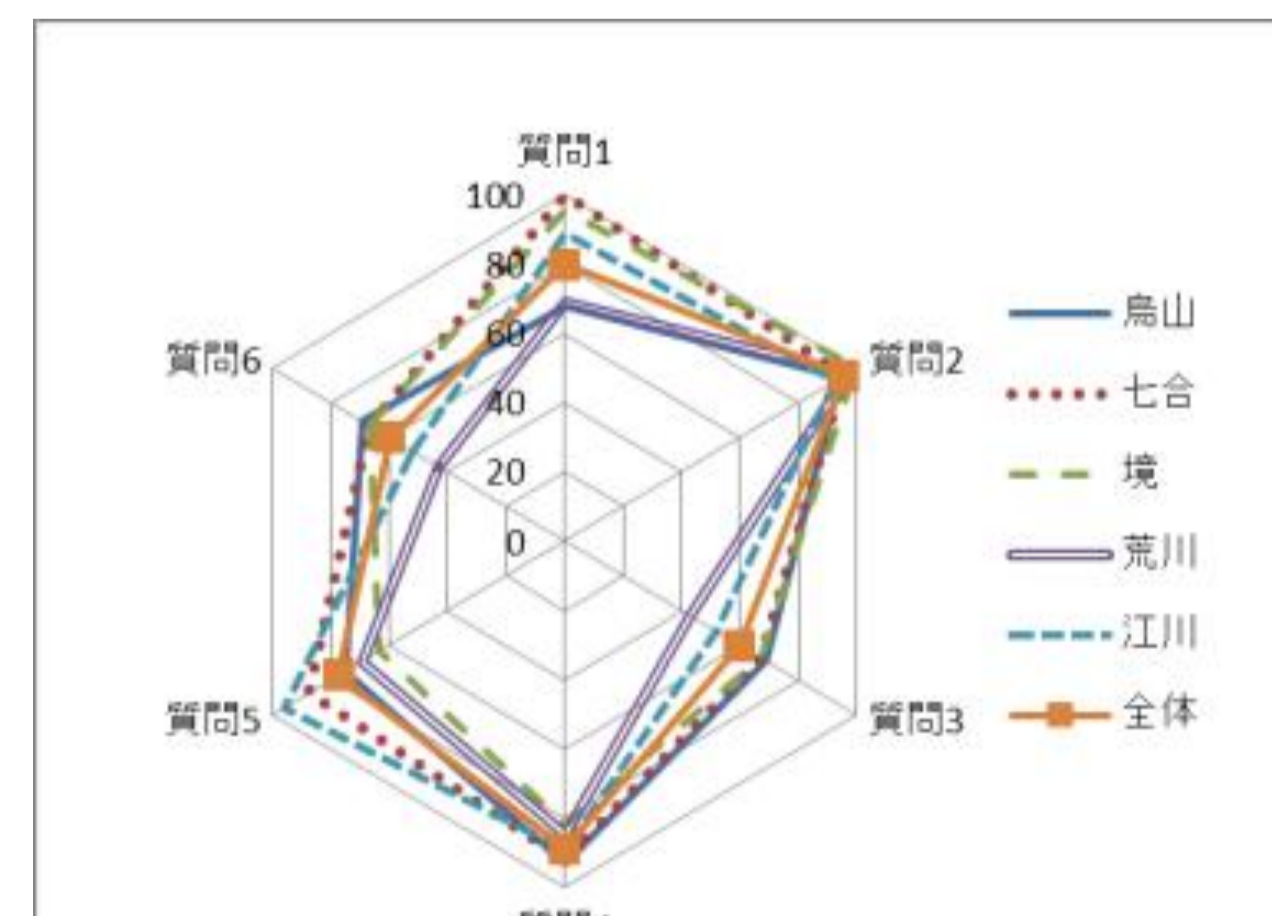


図3 ツアーに対するアンケートの分析

8月20・21・22・23・27日の5日間で226名が参加し、その内児童の回答数は168である。図3に、ツアーに対するアンケートの分析結果を示す。体験学習を通して77%強が交流機会創出を実感し(質問5)、また体験学習が遺産個々の魅力および郷土愛を増幅する等(質問3・4)、ツアーにおける体験学習の有効性が伺えた。

表5 ツアーの評価の内容

質問	評価の内容
質問1	遺産の役割の理解
質問2	地域への関心
質問3	遺産個々の興味・度合い
質問4	地域文化継承への意欲
質問5	コミュニケーション能力の醸成
質問6	地域への愛着心・誇りの醸成

6 まとめ

本研究の成果は、以下のとおりである。

(1)近代化遺産の活用は、地域への愛着心と誇りを涵養するとともに、工学分野への興味を育む契機になったことが確認された。(2)近代化遺産を活用した体験学習は、地域への興味を育む契機となり、またコミュニケーション能力の涵養に一定の効果が期待できるものと思われる。但し、「地域学習活動プラン」の目的の一つである地域文化の未来への継承意欲については、今回のプログラムでは把握できない。その取組みに向けたプログラムの検討が必要である。